



Title	Phosphorylation at threonine 235 by a ras-dependent MAP kinase cascade is essential for transcriptional activation of NF-IL6
Author(s)	中島, 俊洋
Citation	大阪大学, 1993, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38123
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	なか じま とし ひろ 中 島 俊 洋
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 1 0 6 3 8 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 5 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 医学研究科病理系専攻
学 位 論 文 名	Phosphorylation at threonine 235 by a ras-dependent MAP kinase cascade is essential for transcriptional activation of NF-IL 6 (Ras-MAP キナーゼを介するシグナル伝達系による NF-IL 6 活性化機構の解明)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 平野 俊夫 (副査) 教 授 岸本 忠三 教 授 谷口 維紹

論 文 内 容 の 要 旨

(目 的)

NF-IL 6 は、IL-6、IL-1、IL-8、急性期蛋白、c-fos など種々の遺伝子の発現にかかわる転写因子である。NF-IL 6 はリン酸化タンパクであり、核への局在、DNA への結合能、転写活性化能はいずれも、リン酸化により制御されている。従って NF-IL 6 は、タンパクのリン酸化を介するシグナル伝達系の核内ターゲットであると考えられる。しかし、細胞外シグナルが、どのようなシグナル伝達系を介し NF-IL 6 を活性化するのは依然として不明である。例えば、IL-6 のシグナルは細胞内のチロシンキナーゼを介し Ras を活性化し、最終的に NF-IL 6 を活性化する。しかし、Ras と NF-IL 6 との間の経路は不明である。そこで、本研究は Ras による NF-IL 6 の活性化機構について検討した。

(方法と結果)

まず、NF-IL 6 が、Ras により活性化されるかを検討するため、線維芽細胞株 NIH 3 T 3 と胎児性癌細胞株 P19 に、NF-IL 6 の発現ベクターをコントロールベクター或いは、活性型 Ras 発現ベクターと共に導入した。そして、それぞれの細胞の NF-IL 6 の転写活性をルシフェラーゼアッセイにより検討した。その結果、NF-IL 6 の転写活性は、Ras により 10~20 倍増強されることが明らかとなった。次に、NF-IL 6 のリン酸化が Ras による活性化に関与するかを検討するため、NF-IL 6 の発現ベクターをコントロールベクター或いは、活性型 Ras 発現ベクターと共に導入した NIH 3 T 3 細胞を、放射性正リン酸により標識した。そして、それぞれの細胞より NF-IL 6 タンパクを免疫沈降法により精製し、2次元ペプチドマップにより解析した。その結果、NF-IL 6 の 1 ケ所のアミノ酸残基のリン酸化が、活性型 Ras により特異的に増強されることが明らかとなった。そこで、NF-IL 6 のリン酸化部位を明らかにするため、Ser 或いは Thr を Ala に置換したポイントミュータントを作製し、同様に 2次元ペプチドマップにより解析した。その結果、NF-IL 6 の Thr235 が、活性型 Ras 依存性にリン酸化されることが明らかとなった。次に、活性型 Ras がどのようなキナーゼを介し、NF-IL 6 の Thr235 をリン酸化するのかを明らかにするため、Thr235 を含む部分のアミノ酸配列を既知のキナーゼのリン酸化モチーフと比較した。その結果、Thr235 を含む部分は、MAP キナーゼのリン酸化モチーフであることが明らかとなった。MAP キナーゼは、Ras 依存性に活性化されることから、NF-IL 6 の Thr235 のリン酸化は、MAP キナーゼを介することが示唆された。そこで、NF-IL 6 の Thr235 が実際に MAP キナーゼによりリン酸化されるかを検討するため、Thr235 を含む部分のペプチドを合成し、in vitro に

いて MAP キナーゼによりリン酸化した。その結果、このペプチドに含まれる、Ser 残基或いは Thr 残基のうち、Thr 235 に相当するアミノ酸残基のみが、MAP キナーゼにより特異的にリン酸化されることが明らかとなった。以上の結果から、活性型 Ras は、MAP キナーゼを介して NF-IL 6 の Thr235 をリン酸化することが示唆された。そこで、Thr235 のリン酸化が、Ras による NF-IL 6 の活性化に必須であるかを検討するため、Thr235 を Ala に置換した変異型 NF-IL 6 の発現ベクターをコントロールベクター或いは、活性型 Ras 発現ベクターと共に、P19 細胞に導入した。そして、細胞内の NF-IL 6 の転写活性をルシフェラーゼアッセイにより検討した。その結果、活性型 Ras による NF-IL 6 の転写活性の増強は、Thr235 を Ala に置換することで阻害されることが明らかとなった。

(総括)

本研究の結果から、Ras は MAP キナーゼを介し、NF-IL 6 の Thr235 をリン酸化すること、そして、Thr235 のリン酸化が、NF-IL 6 の転写活性を増強することが明らかとなった。従って、IL-6 のシグナルは、Ras → MAP キナーゼを介して NF-IL 6 を活性化することが示唆される。

論文審査の結果の要旨

本論文は、癌遺伝子である Ras が、どのような機構で転写因子である NF-IL 6 を活性化するのかを明らかにした論文である。これまでに Ras は、MAP キナーゼなど種々のキナーゼを活性化することが明らかとなっていたが、それらの活性化されたキナーゼのターゲットは、依然不明であった。また、NF-IL 6 は、種々のシグナルのターゲットであることが明らかとなっていたが、その活性化機構についての詳細は不明であった。本論文では、Ras が、MAP キナーゼを介し NF-IL 6 の Thr235 をリン酸化し、NF-IL 6 の活性化を引き起こすことを明らかにしている。

この結果は、NF-IL 6 が、特定部位のリン酸化により活性化されること、Ras → MAP キナーゼ → NF-IL 6 というシグナル伝達系が存在することを示唆するが、これらは転写因子の活性化機構、ならびにシグナル伝達機構を解明するうえで重要な知見である。

従って、この論文は、学位論文としての価値が十分あるものと認められる。